



2025年3月期 第2四半期（2024年4月～9月） 決算説明資料



株式会社MCJ

2024年11月5日

2025年3月期 第2四半期（4月～9月）における主なトピックス

業績サマリー

□ 売上高及び各利益が上半期としての過去最高を更新

- 上半期としての過去最高の売上総利益額及び利益率を確保。高水準の利益率が継続
- 一時収益除く**実質ベース***でも各利益は過去最高となり、**上半期営業利益として初の90億円超え**を達成

業績に係るトピック

□ パソコン関連事業は期初予想を上回る水準にて推移

- 国内PC関連事業は**マウス**が増収を牽引。前年度営業赤字だった**ユニットコム**は順調に回復し**営業利益黒字転換**
- 海外PC関連事業は**両社ともに前年同期比増収**。期初予想以上の営業利益を達成

□ 総合エンターテインメント事業は前年同期比増収増益

- コロナ禍における構造改革や積極的な営業施策の結果、**増収増益が継続**
 - **ネットカフェ増益基調継続**に加え、**24時間フィットネス事業**が業績を牽引

□ 業績は期初予想を上回り着地

- 期初予想における上半期は前年同期比増収増益想定。**売上高及び各利益共に期初予想を超えて着地**

その他トピックス

□ 「東証スタンダード市場TOP20」の構成銘柄に初選出

- JPX総研が算出する、東証スタンダード市場のうち上位20銘柄が選定される株価指数の構成銘柄として初選出

* 保有資産売却に係る一時収益を除くベース。詳細は次項以降をご参照ください。

1. 第2四半期連結業績報告**3 - 2 1**

2. その他のトピックス

2 3 - 2 6

3. 通期見通し

2 8 - 3 0

連結業績サマリー (1/2)

2025年
3月期
第2四半期

実績

4月～9月
累計期間□ 市場環境に迅速に対応し、売上高及び各利益共に過去最高を達成

- 売上高： 961億円 (前年同期比 8.7%増)
- 営業利益： 97億円 (同 13.8%増)
 - 円安傾向継続も前年同期比増収増益を達成
 - 過去最高の売上高達成に加え、売上総利益率も過去最高を達成。
高水準の利益率が継続

7月～9月
会計期間□ 前年同期比増収基調が継続

- 売上高： 457億円 (前年同期比 6.4%増)
- 営業利益： 37億円 (同 0.8%減)
 - 売上高増を積極化したマウスに加え、iiyamaが増収を牽引した結果、2Qとして過去最高の売上高を達成
 - 売上拡大に伴う販管費が増加するも、前年同期とほぼ同水準の営業利益となる

連結業績サマリー (2/2)

2Qも前年同期比増収継続。販管費増を受け営業利益は前年同期比微減益となるも2Q営業利益としては**過去2番目の水準**を確保

(百万円)	会計期間 (7月~9月)			累計期間 (4月~9月)		
	2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期	増減率	2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期	増減率
売上高	42,945	45,714	6.4%	88,440	96,178	8.7%
営業利益	3,807	3,776	Δ 0.8%	8,582	9,763	13.8%
経常利益	3,798	4,224	11.2%	8,528	10,223	19.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,848	2,959	3.9%	6,227	7,263	16.6%

- 前期4Qより、四半期での前年同期比増収基調が継続。**3四半期連続で前年同期比増収となり、2Qとしての過去最高の売上高**を達成
- 2Qにおいては**営業利益が過去2番目の水準、営業利益を除く各利益は過去最高**となり高い利益水準が継続
- 結果、**上半期では売上高及び各利益が過去最高**を更新

【参考資料】 一時的な要因を除いた 連結業績サマリー

1Qに計上の一時収益を除く**実質ベースでも**
上半期売上高及び各利益が過去最高を更新

(百万円)	会計期間 (7月~9月)			累計期間 (4月~9月)		
	2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期	増減率	2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期	増減率
売上高	42,945	45,714	6.4%	88,440	94,473	6.8%
営業利益	3,807	3,776	△ 0.8%	8,582	9,083	5.8%
経常利益	3,798	4,224	11.2%	8,528	9,543	11.9%

- 1Qに保有資産売却が発生。上記は当該影響を除く実質ベースでの参考数値となる
- 当該実質ベースでも上半期営業利益は90億円を超え過去最高を更新

第2四半期（4月～9月）連結損益計算書

前年同期比増収増益を達成 過度な円安継続も高水準の利益率を保ちつつ、増収基調が継続

(百万円)	2024年3月期 第2四半期		2025年3月期 第2四半期		前年同期比		
	金額	売上対比	金額	売上対比	増減金額	増減率	
売上高	88,440	100.0%	96,178	100.0%	7,737	8.7%	マウス及びiiyamaが全体の増収を牽引
売上原価	65,999	74.6%	71,427	74.3%	5,428	8.2%	
売上総利益	22,441	25.4%	24,751	25.7%	2,309	10.3%	売上総利益額及び利益率共に過去最高を達成。円安継続も高水準の利益率が継続
販売及び一般管理費	13,859	15.7%	14,987	15.6%	1,128	8.1%	人件費や広告宣伝費等の戦略費用増に加え、売上増に伴う変動費用も増加
営業利益	8,582	9.7%	9,763	10.2%	1,181	13.8%	
経常利益	8,528	9.6%	10,223	10.6%	1,694	19.9%	上記の結果、営業利益の額及び率共に過去最高を達成
税金等調整前当期純利益	8,684	9.8%	10,191	10.6%	1,507	17.4%	
親会社株主に帰属する当期純利益	6,227	7.0%	7,263	7.6%	1,035	16.6%	経常利益以下も増益を確保し、過去最高となる

【参考資料】 一時的な要因を除いた 第2四半期（4月～9月） 連結損益計算書

保有資産売却に伴う影響を除いた実質ベースでも
高水準の利益率を伴う増収増益を達成し、各利益は過去最高を達成

(百万円)	2024年3月期		2025年3月期		前年同期比	
	第2四半期		第2四半期			
	金額	売上対比	金額	売上対比	増減金額	増減率
売上高	88,440	100.0%	94,473	100.0%	6,032	6.8%
売上原価	65,999	74.6%	70,402	74.5%	4,403	6.7%
売上総利益	22,441	25.4%	24,071	25.5%	1,629	7.3%
販売費及び一般管理費	13,859	15.7%	14,987	15.9%	1,128	8.1%
営業利益	8,582	9.7%	9,083	9.6%	501	5.8%

マウス、iiyamaの好調を受け、実質ベースでも前年同期比での増収基調は変わらず

四半期として過去最高の売上総利益額及び利益率を達成。高水準の利益率が継続

人件費、広告宣伝費等の戦略費用や、変動費用の増加を受け、売上高販管費比率が若干上昇

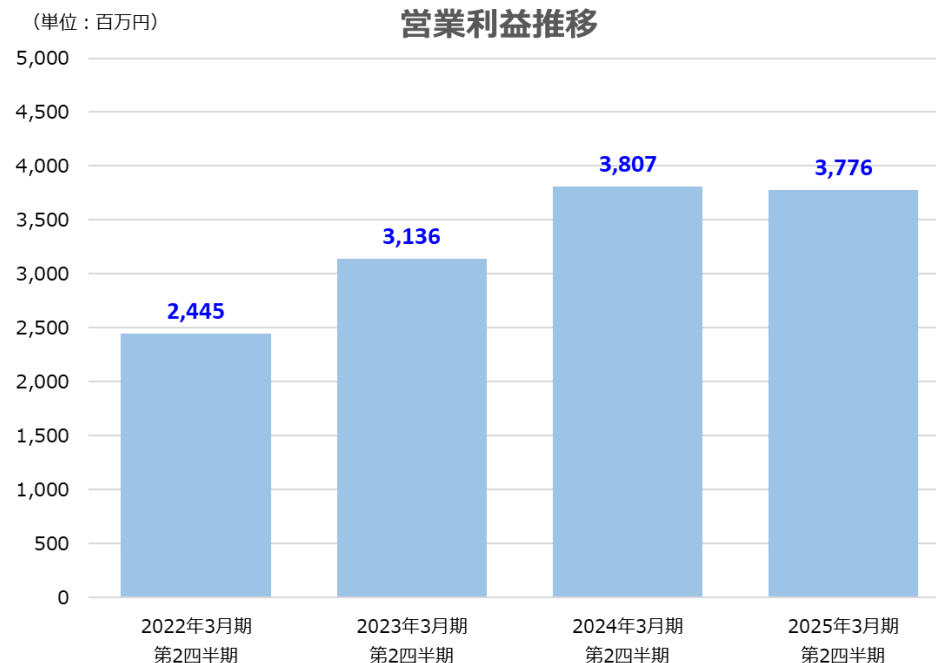
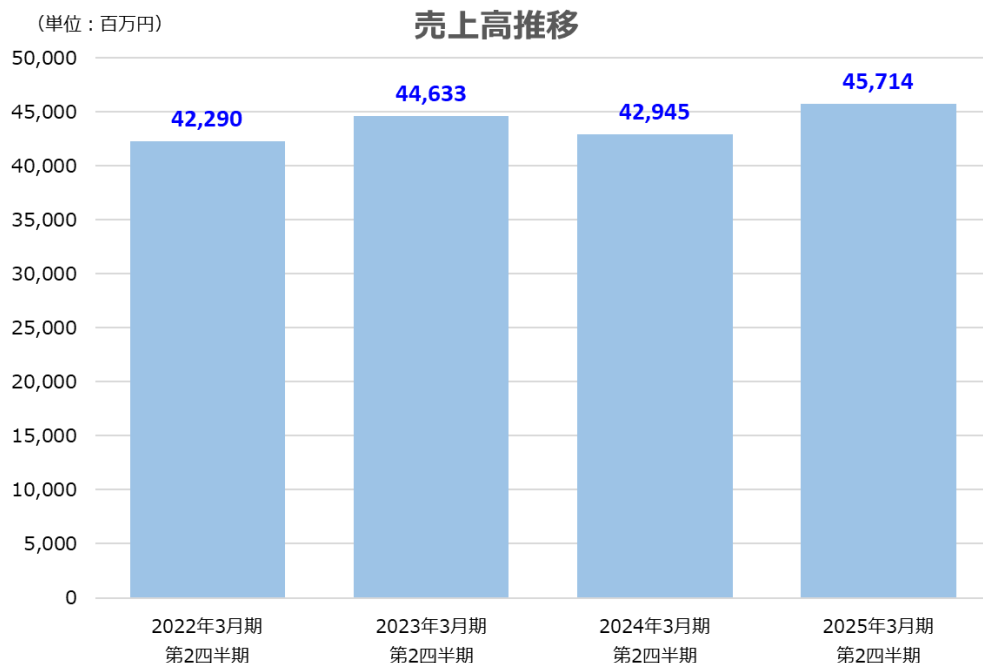
実質ベースでも上半期営業利益として初の90億円超えとなり、過去最高の営業利益となる

第2四半期（7月～9月）連結業績推移グラフ

期初想定通りに前年同期比増収基調にて推移
営業利益も過去2番目の水準となり好調を維持

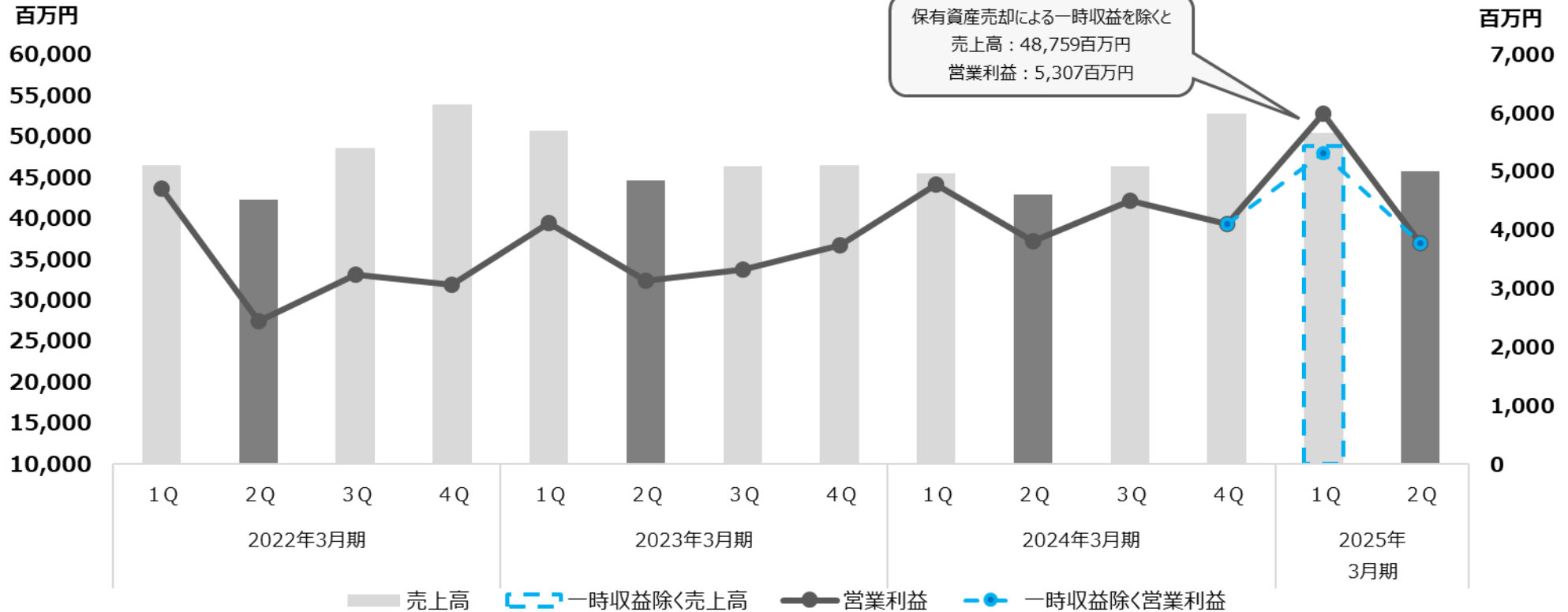
大幅増収となったマウスを筆頭に、iiyamaも増収
基調継続。結果、売上高は450億円を超え、
2Qとしての過去最高を達成

円安基調の継続や販管費増も、高い売上総利
益率を確保し、**四半期利益としての過去2番目
の水準を達成**



第2四半期（4月～9月）連結業績推移

売上高は450億円を超え、前年同期比増収となり2Qとして過去最高を達成
営業利益も37億円を超え、四半期利益として高水準を維持



(百万円)	2022年3月期				2023年3月期				2024年3月期				2025年3月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	46,473	42,290	48,627	53,855	50,614	44,633	46,378	46,449	45,495	42,945	46,299	52,715	50,464	45,714
営業利益	4,702	2,445	3,230	3,057	4,113	3,136	3,328	3,740	4,775	3,807	4,498	4,111	5,987	3,776

※ 上記表の2025年3月期1Qには、保有資産売却による一時収益による影響を含んでおります。

参考) 第2四半期 (4月~9月) 連結業績予想に対する達成率及び進捗

上半期は前年同期比増収増益の期初予想。
想定通り増収増益基調となり、売上高及び各利益共に**期初想定を上回り**着地

上半期連結業績予想に対する達成率

(百万円)	上半期連結業績予想に対する達成率			
	2025年3月期 第2四半期実績	2025年3月期 第2四半期累計期間 業績予想	達成率	(参考)2024年3月期 第2四半期累計期間 実績
売上高	96,178	93,000	103.4%	88,440
営業利益	9,763	9,100	107.3%	8,582
経常利益	10,223	9,000	113.6%	8,528
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,263	6,400	113.5%	6,227

売上高はマウスの好調などにより
期初予想を上回る結果となる

各利益は減益想定だったiiyamaの増益や、ユニットCOMの好調などにより、
期初予想を上回る結果に

セグメント情報 第2四半期 4月～9月実績

パソコン関連事業

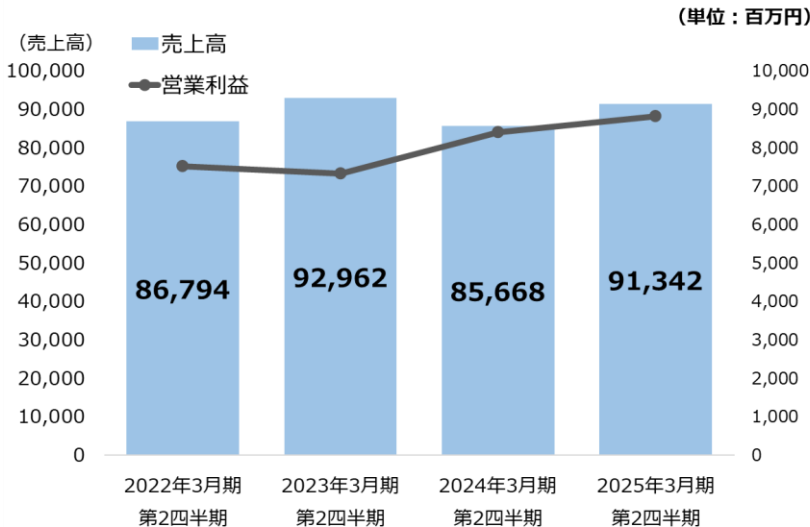


➤ 売上高 913億円 (前年同期比6.6%増)

- 国内パソコン関連事業はマウスが前年同期比増収を達成
- 海外パソコン関連事業 (1月～6月) はiiyama、R-Logic共に前年同期比増収

➤ 営業利益 88億円 (同5.0%増)

- 国内パソコン関連事業はテックウインドが大幅な減益も、ユニットコムが前年同期比大幅増益を達成
- 海外パソコン事業はiiyamaの前年同期比増益基調が継続

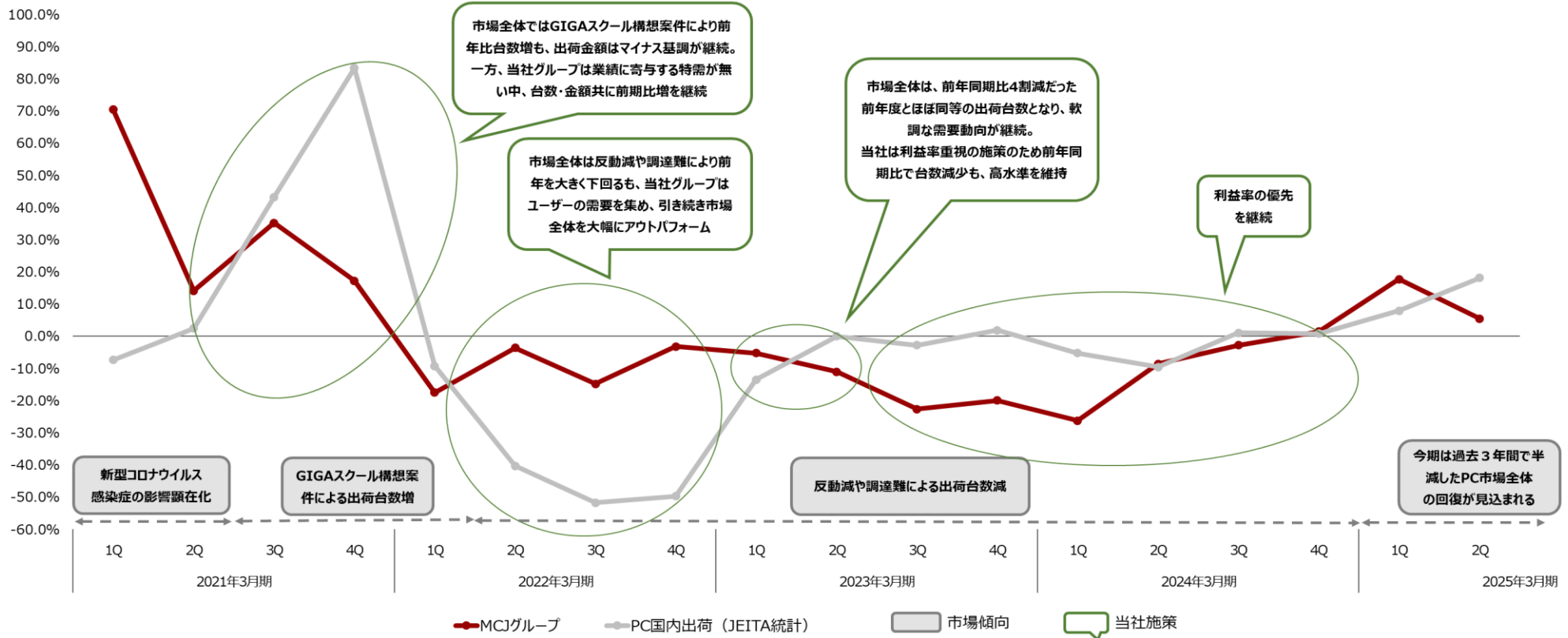


パソコン関連事業 (百万円)	2024年3月期 第2四半期		2025年3月期 第2四半期		前年同期比	
	金額	構成比率	金額	構成比率	増減額	増減比率
売上高	85,668	96.9%	91,342	96.7%	5,674	6.6%
営業利益	8,396	97.8%	8,815	97.0%	418	5.0%

※ 上記表には、連結消去及び全社費用等の金額が含まれていないため、「連結売上高」数値と各セグメント数値の合計値とが異なります。なお、構成比は、「連結売上高」数値を基に算出しております。
 ※ 上記は保有資産売却に係る一時収益を除いた数値となります。

国内パソコン出荷台数増減率の推移

国内PC市場全体は3年に及ぶ市場縮小傾向からようやく回復の兆しが見え、1Qに続き出荷台数増が継続
 当社グループは、ハイスペックPCや法人需要の堅調等により前年同四半期比での出荷台数増が継続



※ 上記グラフは、四半期（会計期間）ごとの出荷台数実績を前年同期と比較したものです。

主要子会社トピックス【マウスコンピューター】



PC及び周辺機器の開発・製造・販売

2025年3月期 第2四半期 実績

(百万円)	2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期	増減率
売上高	23,146	29,356	26.8%
営業利益	1,859	1,622	△12.8%
経常利益	1,497	1,895	26.6%
当期純利益	973	1,227	26.2%

- 今期より増収基調を目指す中、**上半期売上高は市場平均を大幅に上回り**着地
- 自社ECを中心とする直販チャンネル、法人向け販売チャンネルが全体の伸びを牽引
- 増収に加え、**売上総利益も前年同期比増益**を達成
- 一方で、増収基調を反映し、前年度は抑制していた販管費が広告宣伝費等を中心に増加
- 以上の結果、上半期では**営業減益**となるも**経常利益及び当期純利益は大幅な増益**となる

主要子会社トピックス【マウスコンピューター】

製品多様化・差別化の推進と新規ユーザー獲得に向け、積極的な営業・製品施策を展開

注力分野での多様化推進

ストリートファイターリーグ Pro-JP2024
オフィシャルパートナー協賛



レーシングシミュレーター向けPC



教育と地域社会貢献への取り組み

キッズニア東京に「パソコン工場」オープン



「パソコン工場」パビリオン外観（イメージ）

学生向けプログラミング教室やパソコン組み立て体験への協賛



主要子会社トピックス【ユニットコム】

UNITCOM

オリジナルPC、PCパーツ、周辺機器等の販売

2025年3月期 第2四半期 実績

(百万円)	2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期	増減率
売上高	20,535	17,718	△13.7%
営業利益	△79	347	—
経常利益	△104	295	—

- 前年上半期での営業赤字を受け、前期実行の収益構造改革の効果が発現。現状の売上規模でも利益が出せる体制となる
- 上半期は前年同期比での店舗数の減少や取り扱い製品の見直し等が売上高に影響
- 以上の結果、**前年同期比減収も営業利益を含む各利益では大幅な黒字転換**を果たす等、堅調に回復
- 下半期に向け、売上高の拡大を図り積極的な製品投入等を想定

※保有資産売却に係る一時収益を除いた数値となっております。

※税金への影響が現段階で未確定のため、経常利益までの表示としております。

主要子会社トピックス【ユニットコム】

前期実施の収益構造改革を経て収益が安定化。今後に向け積極的な営業・製品施策を展開

注力分野での製品積極投入

新たな顧客層開拓の為に製品多様化

● ホワイト筐体製品



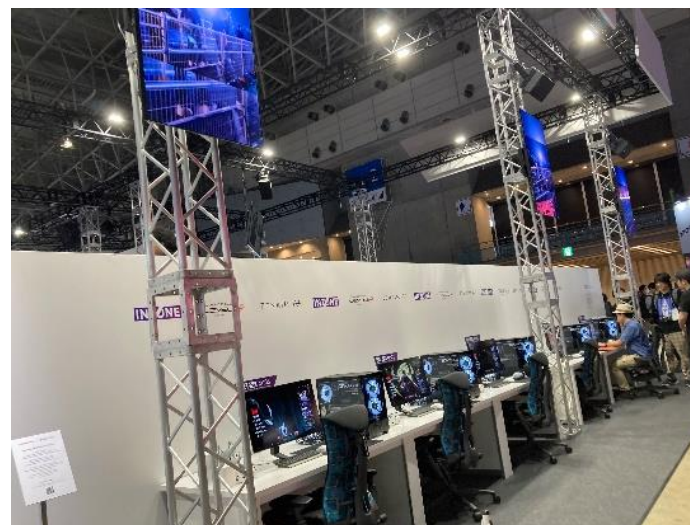
● プロe-スポーツチームとのコラボ製品最新版



プロモーションによる顧客獲得強化

#東京ゲームショー2024での製品提供

- スポンサーする著名e-スポーツチームのブースにおいて、当社製品の展示及び体験会を実施



主要子会社トピックス【テックウインド】



PC及びPC周辺機器パーツの卸売・販売

2025年3月期 第2四半期 実績

(百万円)	2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期	増減率
売上高	18,169	13,514	△25.6%
営業利益	448	52	△88.3%
経常利益	523	69	△86.8%
当期純利益	356	56	△84.0%

- 期初想定通りの減収減益にて着地
- 歴史的な円安トレンドの影響が継続し、前期より減収トレンドが継続
- 引き続き新たな商材発掘や事業立ち上げを通じ、**利益率向上を図り**、事業の安定を目指す

《展示会の様子》

「6月に開催されたInterop Tokyo 2024に出展、AIソリューションを前面に押し出した展示」



主要子会社トピックス【iiyama】



モニタの開発及び販売（欧州モニタ事業）

2025年3月期 第2四半期(2024年1月～2024年6月)実績*

(百万円)	2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期	増減率
売上高	26,761	31,206	16.6%
営業利益	5,900	6,553	11.1%
経常利益	6,300	7,088	12.5%
当期純利益	4,693	5,280	12.5%

- 今期期初計画は前年同期比増収減益の想定
- 上半期は欧州の景況感悪化継続に伴い、軟調な需要が継続する等、困難な市場環境の下、期初想定通り**前年同期比増収**を達成
- 産業用モニタを中心に受注が好調な中、比較的高い売上総利益率が継続
- 以上の結果、**各利益でも前年同期比増益**となり、堅調な業績を達成

※ 外国法人としてのiiyamaは12月決算の為、3か月期ずれて当社連結決算に組み込んでおり、上記においては2024年1月～2024年12月の業績を連結上組み込んでおります

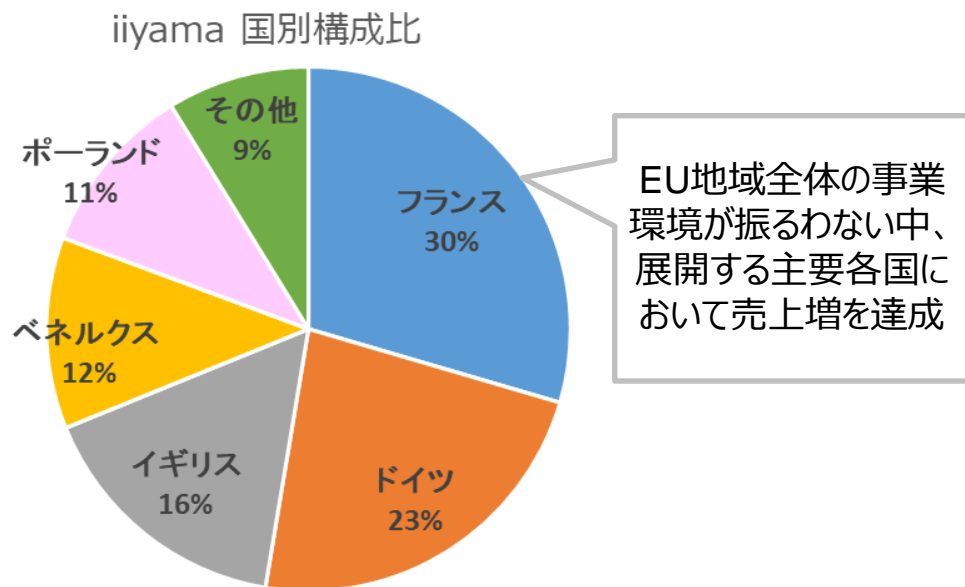
主要子会社トピックス【iiyama】



2025年3月期 第2四半期(2024年1月～2024年6月)実績*1

事業展開国別の構成比*2

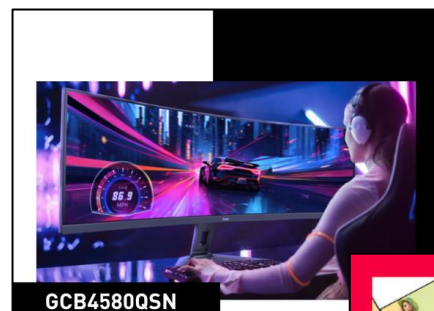
既存展開国における営業強化に加え、今後展開エリアを順次拡大予定



主要製品（例）

産業用ディスプレイの需要が堅調で売上増を牽引

《curved ゲーミングモニタ、一例》



産業用は販売台数、金額共に前年同期比増を達成

《デジタルサイネージ利用イメージ図》



※1 外国法人としてのiiyamaは12月決算の為、3か月期ずれて当社連結決算に組み込んでおり、上記においては2024年1月～2024年6月の業績を連結上組み込んでおります

※2 出荷台数ベースにて集計しております。また、ベネルクスには、オランダ、ベルギー、ルクセンブルクを内包しております。

主要子会社トピックス【R-Logic】



アジア地域におけるPC及びIT機器の修理・サポート

2025年3月期 第2四半期(2024年1月～2024年6月)実績*

(百万円)	2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期	増減率
売上高	1,958	2,294	17.1%
営業利益	173	168	△3.4%
経常利益	203	235	15.3%
当期純利益	149	174	16.9%

- 引き続き経済成長の著しい**インド事業が業績好調**を牽引すると共に、**コロナ禍において立ち上げた新規事業も好調に推移**し、前年同期比での増収トレンドが継続
- 事業拡大に伴う先行投資を含む経費増も、安定した営業利益を確保
- 以上の結果、前年同期比で大幅な増収となり、利益も堅調を維持

《インドにおける拠点の一部》



《コロナ禍以降の
無人修理受付機
(シンガポール)》



※ 外国法人としてのR-Logicは12月決算の為、3か月期ずれて当社連結決算に組み込んでおり、上記においては2024年1月～2024年12月の業績を連結上組み込んでおります

セグメント情報 第2四半期 4月～9月実績

□ **総合エンターテインメント事業**：株式会社aprecio、株式会社MID
【ネットカフェ、24時間フィットネス、接骨院・整体院、ホテル運営事業】

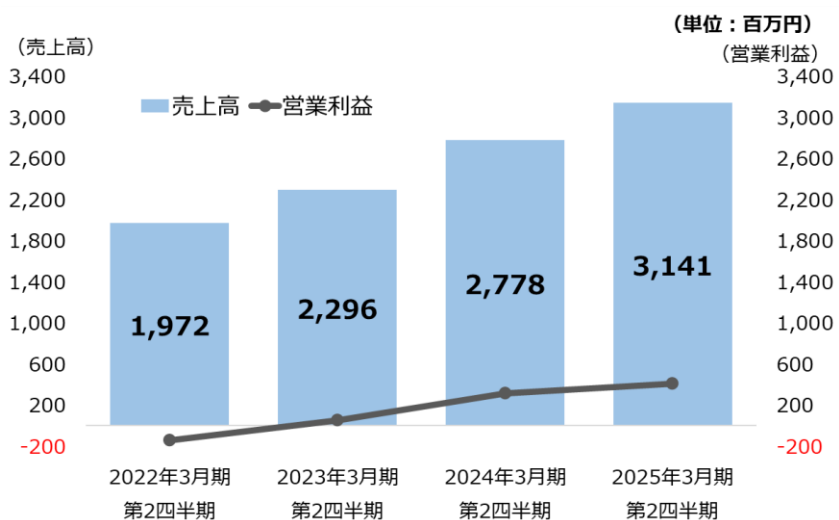


➤ **売上高 31億円 (前年同期比13.0%増)**

- 主力のネットカフェ事業及びコロナ禍以降注力する24時間フィットネス事業共に、利用者数の増加が継続
- 両事業共に増収を維持し、セグメントとして増収基調が継続

➤ **営業利益 4億円 (同30.4%増)**

- ネットカフェ事業が前年同期比で大幅な増益となる
- 24時間フィットネス事業も引き続き増益となり全体を牽引



総合エンターテインメント事業 (百万円)	2024年3月期 第2四半期		2025年3月期 第2四半期		前期比	
	金額	構成比率	金額	構成比率	増減額	増減比率
売上高	2,778	3.1%	3,141	3.3%	362	13.0%
営業利益	313	3.6%	408	4.2%	95	30.4%

※ 上記表には、連結消去及び全社費用等の金額が含まれていないため、「連結売上高」数値と各セグメント数値の合計値とが異なります。なお、構成比は、「連結売上高」数値を基に算出しております。

1. 第2四半期連結業績報告	3 – 21
2. その他のトピックス	23 – 26
3. 通期見通し	28 – 30

中期経営計画進捗サマリー



		目標値	実績
2025年 3月期 第2四半期 4月～9月	営業利益率	7%以上	10.2%
	ROIC	15%程度以上	通期にて開示予定
	ROE	15%程度以上	通期にて開示予定
	配当性向	30%以上	31.1% (計画)
	DOE	4.5%程度	通期にて開示予定
	総還元性向	30～40%程度	通期にて開示予定
事業運営 方針	<p>□ 足元の事業環境や中計方針に則り以下方針にて着実な成長を狙う</p> <ul style="list-style-type: none"> ●【国内PC事業】：利益重視スタンスにて手堅く運営しつつも、将来の成長基盤強化に向けた各種施策を着実に実施 ●【海外PC事業】：変わりつつある環境に臨機応変に適応し収益基盤強化 ●【総合エンターテインメント事業】：伸ばせる事業へ注力。黒字化定着図る 		

MCJグループのESG活動例

当社における関連活動及び実績一例紹介

《全体方針の策定：2020年》



《日本における災害支援件数》

- 地震、台風、大雨等に直面した地域における貢献活動

■ 方針策定後の災害支援件数

✓ 17件

■ うち今期上半期支援件数

✓ 6件

《災害支援内容の一例》

- 修理見積、修理作業費用の無償化
- データ復旧・移行に係る検証作業費用無償
- 修理期間中の代替PC無償レンタル
- 買い替え時の故障を含む製品下取り最低金額保証
- ...

JPX日経インデックス400に5年連続で選定される



■ 東京証券取引所及び日本経済新聞社が共同で算出する「JPX日経インデックス400」へ選定

- » 当社は2020年度に初めて選定される
- » その後、**本年度含め5年連続で選定**

■ 当社は今後も投資家の皆様のご期待に添えるよう、更なる企業価値向上を目指した事業運営に尽力してまいります



2024年8月8日

各 位

会社名 株式会社MCJ
代表者名 代表取締役社長兼COO 安井 元康
(スタンダード市場 コード番号: 6670)
問合せ先 経営企画室 広報 IR 担当
ir-otoiawase@mcj.jp

「JPX 日経インデックス 400」構成銘柄への再選定に関するお知らせ

当社は、このたび株式会社東京証券取引所及び株式会社日本経済新聞社が共同で算出を行っている「JPX 日経インデックス 400」の構成銘柄として、2023 年度に引き続き、5年連続で2024 年度（2024 年8月30日～2025 年8月28日）も選定されましたのでお知らせいたします。

本指数は、資本の効率的活用や投資者を意識した経営観点など、グローバルな投資基準に求められる諸要件を満たした「投資者にとって投資魅力の高い会社」で構成され、日本企業の魅力を内外にアピールするとともに、その持続的な企業価値向上を促し、株式市場の活性化を図ることを目的として創生された株価指数です。

東京証券取引所（プライム、スタンダード、グロース）を主市場とする普通株式銘柄から選定された400 銘柄で構成されます。

当社は今後も投資家の皆様のご期待に添えるよう、更なる企業価値向上を目指した事業運営に尽力してまいります。

「JPX 日経インデックス 400」の詳細につきましては、以下をご参照ください。
<https://www.jpx.co.jp/markets/indices/jpx-nikkei400/index.html>

以上

東証スタンダード市場 TOP20に初めて選定される

■ 「東証スタンダード市場 TOP20」へ選定

- » 株式会社JPX総研が算出を行っている「東証スタンダード市場TOP20」の構成銘柄として選定されました。
- » 本指数は、東証スタンダード市場に上場する株式のうち、上場時価総額、流動性を考慮して選定された20銘柄で構成される株価指数です。毎年10月に定期入替が実施され、**当社は今回基準を満たしたため初めて選定**されたものです。

- **当社は今後も投資家の皆様のご期待に添えるよう、更なる企業価値向上を目指した事業運営に尽力してまいります**



2024年10月9日

各 位

会社名 株式会社 M C J
代表者名 代表取締役社長兼 COO 安井 元康
(スタンダード市場 コード番号: 6670)
問合せ先 経営企画室 広報 IR 担当
ir-otoiawase@mcj.jp

「東証スタンダード市場 TOP20」構成銘柄への選定に関するお知らせ

当社はこの度、株式会社JPX総研が算出を行っている「東証スタンダード市場 TOP20」の構成銘柄として、選定されましたのでお知らせいたします。

本指数は、東証スタンダード市場に上場する株式のうち、上場時価総額、流動性を考慮して選定された20銘柄で構成される株価指数です。毎年10月に定期入替が実施され、当社は今回基準を満たしたため選定されたものです。

当社は今後も投資家の皆様のご期待に添えるよう、更なる企業価値向上を目指した事業運営に尽力してまいります。

「東証スタンダード市場 TOP20」の定期選定（2024年10月31日実施）結果及び構成銘柄一覧
https://www.jpx.co.jp/news/6030/mkip77000000i9e9-att/mei2_27_gcore_top20.pdf

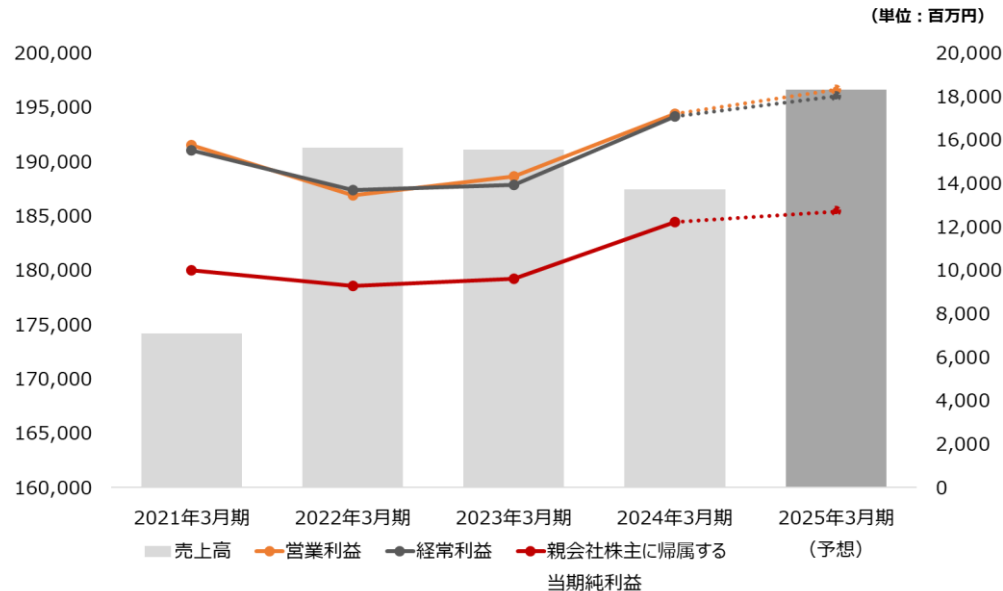
以上

1. 第2四半期連結業績報告	3 – 21
2. その他のトピックス	23 – 26
3. 通期見通し	28 – 30

2025年3月期 通期連結業績計画

上半期は期初予想を上回る実績も、
現時点においては期初発表の通期業績予想計画は修正せず

(百万円)	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期 (予想)
売上高	174,173	191,247	191,076	187,455	196,600
営業利益	15,758	13,435	14,318	17,192	18,300
経常利益	15,510	13,680	13,935	17,087	18,000
親会社株主に帰属する 当期純利益	10,005	9,283	9,603	12,199	12,700



株主還元① 配当金について

2025年3月期の配当金予想は増収増益を見込むこともあり
記念配当を除く普通配当ベースでは**前期比での増配継続**を前提とする

		実績					予想
		2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期
年間1株当たり 配当金						57円00銭	40円00銭
	普通配当	23円50銭	31円00銭	32円00銭	33円00銭	37円00銭	
	記念配当					20円00銭	
配当性向						46.2%	31.1%
	普通配当	30.6%	30.5%	33.9%	33.9%	30.0%	
	記念配当					16.2%	

□ 2025年3月期期末1株当たりの配当金の予想額は40円00銭と想定

» 前期比増配の継続を優先：記念配当を除く普通配当では**12期連続での増配**を見込む

株主還元② 株主優待制度について

2025年3月期も引き続き株主優待制度を実施予定

①1,000株以上

1万円相当の当社オリジナルカタログ
(グループ製品及び飲食料品を予定) より1点選択 + ②

<商品一例>

ゲーミングデバイスセット / 21.5型液晶ディスプレイ
パソコン工房1万円商品券 / 米沢牛すきやき肉
うなぎ蒲焼 / アイスセット / 日本酒セット 等



②100株以上1,000株未満

『パソコンワンコイン診断サービス』利用券
(500円×2枚)





Appendix



- 商号** : 株式会社MCJ (英語表記 MCJ Co.,Ltd.)
- 設立** : 1998年8月
- 代表者** : 代表取締役会長兼CEO 高島 勇二
代表取締役社長兼COO 安井 元康
- 資本金** : 3,868,102,900円
- 従業員数 (連結)** : 4,006人 ※うち臨時職員1,708人 (2024年3月末)
- 発行済株式数** : 101,774,700株 (同上)
- 証券コード** : 6670 (東京証券取引所スタンダード市場上場)

MCJグループ 主要子会社紹介



長期的な経営ビジョン ～ハードウェア×サービスの両輪による成長～

経営ビジョン及び事業方針

相乗効果

取扱製品（ハード）
の拡充

コンテンツ・サービス分野
への事業領域の拡大

設定の背景/考え方

情報に「アクセスする、発信する、共有する」手段としてのデバイスの多様化とユーザーニーズの多様化

ハードウェア・サービスはそれぞれ独立関係ではなく、相互依存関係であり、ビジネスとしても一貫して捉えるのが自然

- 形は変われども情報への接点としてのハードウェアは無くならない
- ハードウェアは成長産業

- ハードウェアよりも事業ドメインは意外とスタティックな世界
- ハードウェア以上の成長ポテンシャル

方向性/目標

- PC、モニタへの注力は継続
 - » 日本・欧州における更なる成長を模索
- コンシューマーハードウェア / 法人向けハードウェア...
 - » 成長市場へのアクセスを図る

- 既存ハード事業と親和性のあるサービス等の開拓
 - » 日本市場を中心としてスタート
- コンシューマー/法人向けサービス...
 - » まずはスモールスタート

目標達成手段

- 自社グループによる開発
- アライアンス戦略による拡大
 - » M&A、ベンチャー投資、事業提携...

- M&Aによる事業ドメインの拡大
- アライアンスによるサービス多様化
 - 当初はV B投資 / 少額M&Aにて着手

経営上重視するKPI

重要視するKPI

実績数値及び目標数値

2016年3月期実績

2022年3月期実績

中期経営計画期間における目標

営業利益率
<営業利益/売上高>

5.0%

7.0%



7%以上

連結ベースで7%以上を目安に事業運営及びポートフォリオ管理を実施

ROIC
<NOPAT/事業性投下資本>

12.4%

19.0%



15%程度
以上

資本コスト比スプレッドを確実に取る事を前提とし、資本効率を意識した事業運営及びポートフォリオ管理を実施。その前提で下限値を設定

ROE
<当期純利益/期中平均株主資本>

13.0%

16.9%



配当性向
<1株当たり配当金/1株当たり当期純利益>

20.5%

33.9%



30%以上

下限を30%と設定し、M&Aを含む成長投資機会との兼ね合いにて都度判断

DOE
<ROE×配当性向>

2.7%

5.7%



4.5%程度

成長投資と株主還元のバランスを意識した経営を行うべく設定

総還元性向
<配当+自社株買>

20.5%

33.9%



30~40%程度

増配基調の維持を優先。株価水準等により自社株買を実施

免責事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提として作成されており、実際の業績等は様々な要因によりこれらの見通しとは異なる可能性があります。

当社は、これらの将来の見通しに関する事項を常に改定する訳ではなく、またその責任も有しません。

尚、実際の業績等に影響を与えうる主な項目例は以下の通りとなりますが、将来見通しに影響を与える項目はこれらに限定されるものではありません。

- » 当社グループの事業領域を取り巻く各種経済情勢
- » 当社グループの製品・サービスに対する需要
- » 新製品等開発に係る当社グループの能力及び新製品・サービスの動向
- » M&Aや他社との事業等の提携
- » 資金調達環境、為替動向等の財務を取り巻く環境
- » 事故・自然災害等

< IR及び本資料に関するお問い合わせ >

株式会社MCJ
経営企画室 広報IR担当

Mail : ir-otoiawase@mcj.jp

HP : www.mcj.jp

M

C

J

M

C

J

MCJ
HOLDING COMPANY